

地域高齢者のボランティアグループ参加と個人のうつ症状との関連～JAGES データを用いた 3 年間の縦断傾向スコア分析マッチング～に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2020年12月07日～2021年3月31日
研究課題	地域高齢者のボランティアグループ参加と個人のうつ症状との関連 ～JAGESデータを用いた3年間の縦断傾向スコア分析マッチング～
研究の概要	<p>目的及び意義：そこで本研究では、ボランティアグループに参加する高齢者の健康度の高さといったバイアスを調整し、傾向スコアマッチングを用いることで、ボランティア活動と高齢者のうつ発症リスクとの因果関係に迫る検証をすることを目的として実施する。</p> <p>対象：日本老年学的評価研究プロジェクト（Japan Gerontological Evaluation Study；以下、JAGES）では、全国の市町村に、ニーズ調査の調査項目を拡張した「健康と暮らしの調査」への参加協力を呼び掛けており、要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象とした郵送調査を過去に5回実施している。</p> <p>本研究では、そのうち、2013調査データならび2016調査データを結合したJAGES13-16panel データを用いて分析を行う。</p> <p>このJAGES13-16panel データに格納されている248,494人のうち、18 保険・24 市町村、65歳以上の高齢者61,267名が対象である。</p> <p>方法：JAGES2013-2016panel データは2013年10月～12月並びに2016年9月～2017年1月に、どちらか、あるいは両年に参加した人が対象である。2013年は31自治体で129,740人、2016年は39自治体で180,021人とされており、最終的なデータセットサンプル数は要介護状態ではない65歳以上の高齢者248,494人であった。参加自治体は、大雪広域連合、東神楽町、東川町、美瑛町、苫前町、十和田市、岩沼市、益子町、船橋市、松戸市、柏市、長柄町、八王子市、余市町、横浜市、新潟市、音更町、高浜町、中央市、早川町、松本市、小山町、森町、名古屋市、豊橋市、半田市、碧南市、西尾市、常滑市、東海市、大府市、知多市、田原市、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、度会町、神戸市、十津川村、丸亀市、福岡市、松浦市、御船町である。本研究では、JAGES13-16panel データセットのうち、ボランティアグループ参加の頻度（6項目）、高齢者うつ尺度（15項目版geriatric depression scale：GDS）、居住学区、年齢、疾患、家族構成、飲酒、喫煙、教育歴、所得等について、匿名化された状態でのデータ提供を受け、統計分析を実施する。</p>
研究組織	<p>研究代表者 ヘルスイノベーション研究科院生 田村元樹</p> <p>研究分担者 ヘルスイノベーション研究科教授 坂巻弘之 他</p>
個人情報の取扱い	匿名加工情報に該当するためデータについては、保存専用の外付けハードディスクにのみ保存するものとし、分析開始からデータを削除するまで、インターネットへの接続を切断したパソコンで処理することとする。その他、データの取り扱いについては下記

	とする。 1 目的以外の理由で使用しない 2 試料・情報を利用閲覧できる者は研究代表者ならびに研究分担者に限定する
その他	

対象となる方で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究分担者： 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科院生 田村
神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授 坂巻
TEL : 044-589-8100 (代表) [内線 213]